

医療DX推進による糖尿病性腎臓病・CKD重症化予防ーハイリスク患者アプローチと地域戦略ー

～在宅療養にかかるバイタル情報及び問診内容のデータベース化、慢性腎臓病・糖尿病性腎症リスク判定プラットフォーム構築事業～

1. 自社紹介(DXに取り組む背景含めて)

自社の紹介

事業者名	 医療法人 貴和の会 すながわ内科クリニック SUNAGAWA MEDICAL CLINIC
従業員数	72名
売上	10億1,200万円
設立年数	18年
事業概要	医療サービスの提供。 ※対象科目：内科／糖尿病内科／腎臓内科／呼吸器内科／循環器内科／ 人工透析内科／リハビリテーション科

当院は、糖尿病・腎臓病・人工透析の専門クリニックとして、2006年3月に開院しました。「地域に根差し、地域から信頼されるクリニック」を合言葉に、糖尿病・腎臓病の発症予防、治療、さらには合併症の進展予防を視野に入れ、日々の診療に取り組んでおります。

DXのきっかけ(背景、取組前の課題等)

- 在宅療養患者および新規患者の**問診ヒアリング**や**データ転記作業に毎回20～30分**を要している
- 問診スタッフが7名配置されているが、問診～診療まで時間を要し、**医師が問診終了を待つ状態**
- カンファレンスが多く時間を要している
4時間/週×4日/月×10名参加＝160時間/月
- **重症化の見逃し回避が必要**



- 問診データベースを構築し、事前問診を行うことで問診から診療までの時間を短縮
- 糖尿病・腎臓病のリスク算出システムを構築し、最適な治療および専門医との連携につなげる

医療DX推進による糖尿病性腎臓病・CKD重症化予防ーハイリスク患者アプローチと地域戦略ー

～在宅療養にかかるバイタル情報及び問診内容のデータベース化、慢性腎臓病・糖尿病性腎症リスク判定プラットフォーム構築事業～

2. 本補助事業で実施した取組

取組内容

①ヘルスケアアプリ「JOTOホームドクター」/タブレットを用いたWeb問診システム

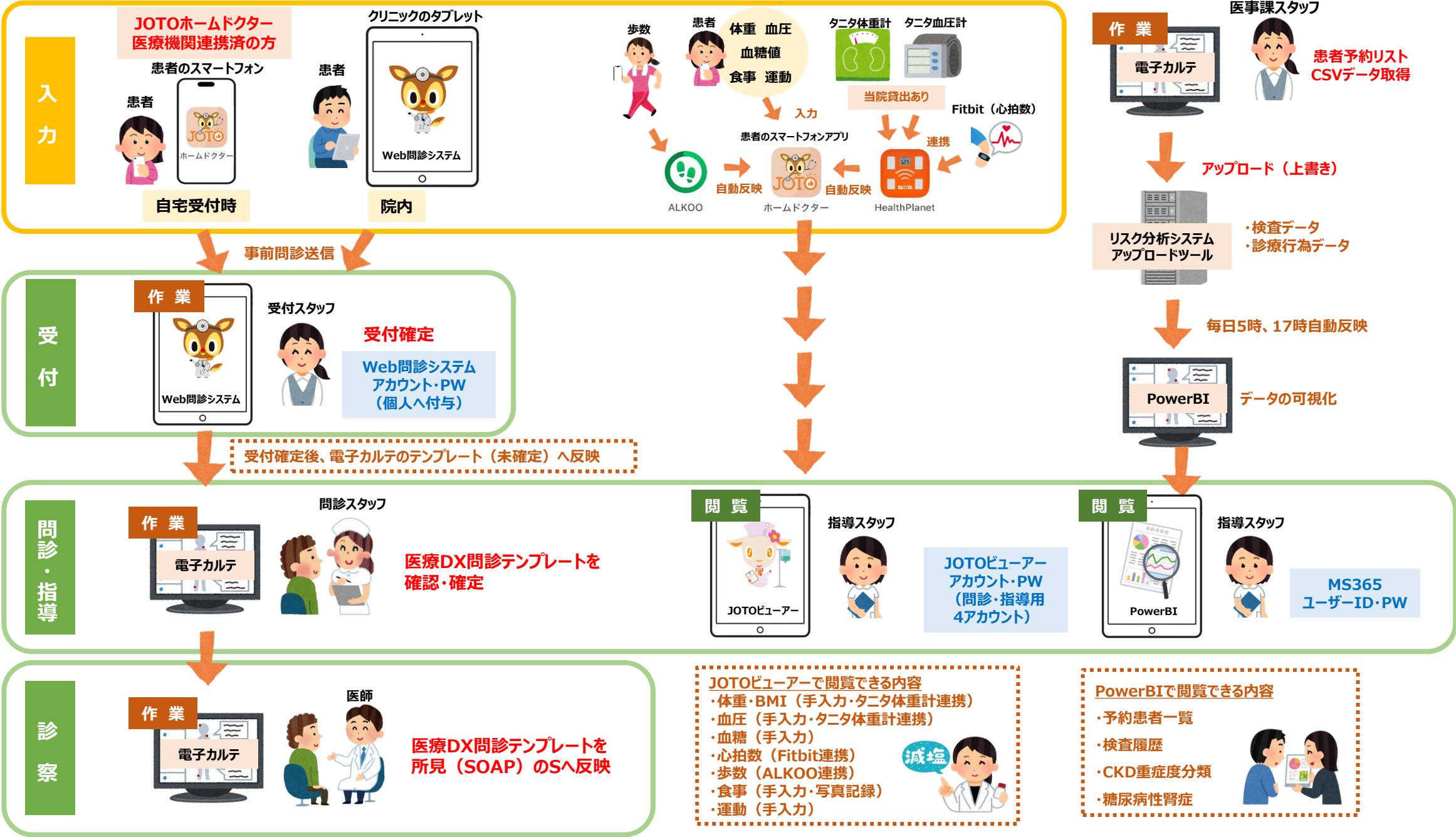


- ・既存の「JOTOホームドクター」アプリ上にWeb問診システムを開発
- ・院内で使用している紙問診内容を再度精査しWeb上で入力しやすい形に再度作成（初診Ver. 再診Ver.など）
- ・JOTOホームドクターのアカウントと電子カルテ上の患者情報とを突合させるシステムを構築
- ・個人情報保護のためのネットワークセキュリティを構築
- ・どの年齢層でも入力しやすいUIを構築
- ・電子カルテ上で問診内容を表示させる機能を実装

②問診、検査データを用いた 糖尿病・腎臓病リスク判定システム



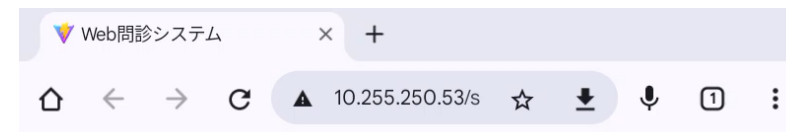
- ・重症度リスク判定のロジックを構築
- ・治療方針や指導要綱を明文化
- ・予約状況、問診内容、過去の検査値のデータ統合
- ・Microsoft「Power BI」上でデータ解析を行うシステムを開発
- ・療養指導加算や検査の漏れを患者ごとに逐一確認できるシステム開発
- ・抽出された解析結果を紹介状に利用できる機能構築



JOTOホームドクター事前問診



院内タブレット事前問診



Web問診システム

問診入力

管理画面

すながわ内科クリニック Web問診システム Ver.1.1.0.3

医療DX推進による糖尿病性腎臓病・CKD重症化予防ーハイリスク患者アプローチと地域戦略ー

～在宅療養にかかるバイタル情報及び問診内容のデータベース化、慢性腎臓病・糖尿病性腎症リスク判定プラットフォーム構築事業～

3. 事業成果(見込まれる効果・分かった事・出てきた課題等)

見込まれる効果

①問診業務の効率化

トータル削減時間と費用：1,143,000円/月 218.3時間/月
(医師稼働時間を含む)

②全対象患者への重点的な支援ができ、さらには重症化が予想される患者を適切に専門病院へ紹介するシステムとして有効に活用できる。

①問診データ入力時間の削減

・月間対応削減時間：100名/月×30分/名=3,000分=50時間
・月間経費削減合計：50時間×2,000円(時給) = 100,000円

②月間のカンファレンス対応時間の削減

・月間対応削減時間：4時間/週×4日/月×10名=160時間
・月間経費削減合計：160時間×6,000円(時給) = 960,000円

③診察時のバイタル、問診データ閲覧時間削減

・月間対応削減時間：100名/月×5分=500分=8.3時間/月
・月間経費削減合計：8.3時間×1万円(時給) = 83,000円

担当者の声



256名の患者の利用があり、問診時間の短縮につながっている。問診業務に慣れていないスタッフでも、スムーズに出来ると思う。

対象患者の絞り込みに要していた時間が削減できた。患者自身が自分の腎臓の状態について理解を深めることが可能になった。



DXに取り組んで分かった事

・デジタル化に留まらないようにその先の展開を想定して仕様を固めていくことに時間を要した。

・70歳以下のスマートフォンを有する方を対象としたが、アプリ取得、ID登録等については、職員の支援を必要とする方が多く、デジタル化を受け入れてもらうには対象者のリテラシー向上も必要だと感じた。

その他(出てきた課題や苦労した点等)

・患者のバイタルデータ入力が思ったより進まなかった。
・新システム導入に伴う患者支援等の業務が増え、問診時間は短縮できたが、待ち時間の短縮にはつながっていない。

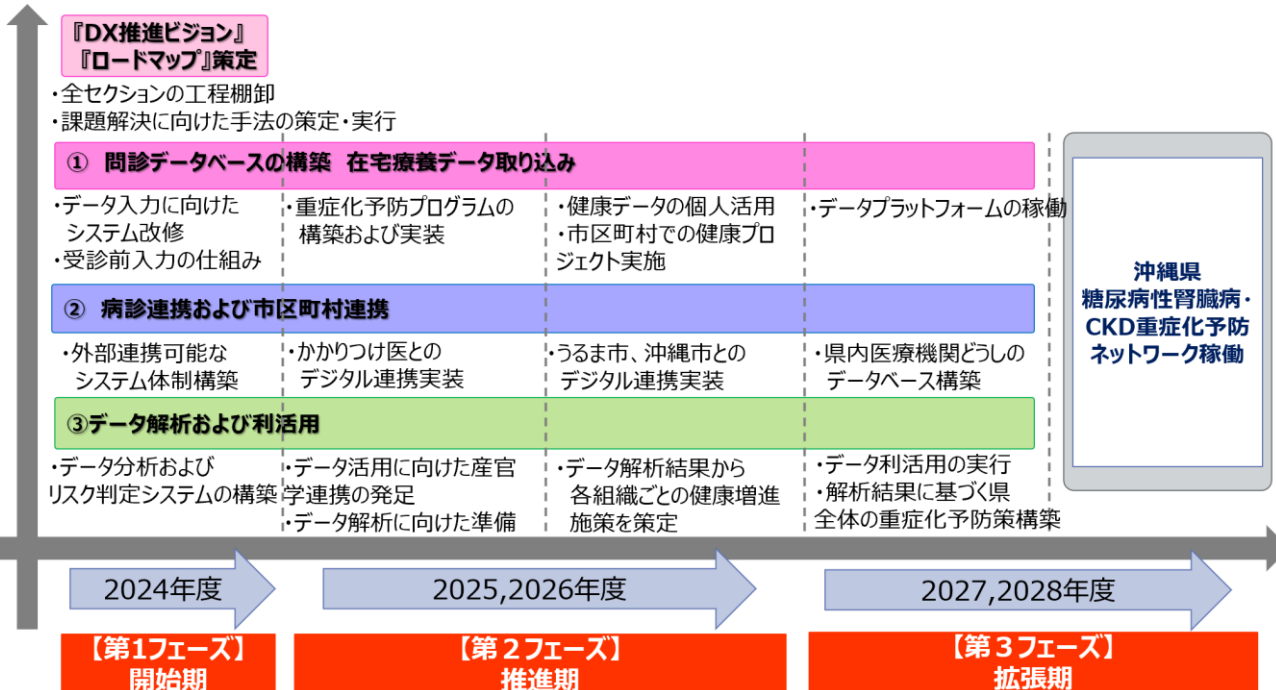
医療DX推進による糖尿病性腎臓病・CKD重症化予防ーハイリスク患者アプローチと地域戦略ー

～在宅療養にかかるバイタル情報及び問診内容のデータベース化、慢性腎臓病・糖尿病性腎症リスク判定プラットフォーム構築事業～

4. 今後の展開

今後の取り組み

- 2025年～ かかりつけ医と専門医とのデータ連携
 - 2026年～ 地域中核病院とかかりつけ医とのデータ連携
 - 2027年～ うるま市、沖縄市とのデジタル連携
 - 2028年～ 県内医療機関どうしのデータベース構築
- 県全体での、糖尿病性腎臓病重症化予防ネットワークの稼働を目指す**



かかりつけ医と地域中核病院で
データベースの連携を行い
医療圏の患者情報の共有化

糖尿病性腎臓病 病診連携システム
およびネットワークの構築
健常→未病→罹患→社会復帰
のサイクル各所へのサポート

